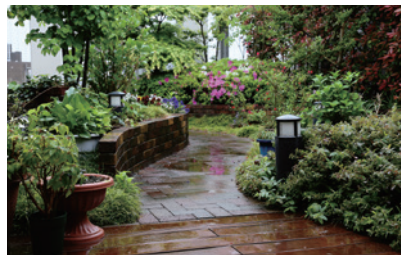


ホスピス聖霊ボランティア「にじの会」のご紹介

01



ホスピス聖霊ではホスピスボランティアグループ「にじの会」が活動しております。

ホスピス聖霊の風景の中に在ることに大きな意味があり、癒しと温かな風を何気なく運んでくれる、「にじの会」はそんな存在です。

2007年7月に発足し、現在の会員数は30名です。ホスピス聖霊の理念を理解し、ホスピスケアチーム

の一員として、ホスピス聖霊に入院される患者様とご家族に、より快適な生活を提供できるように活動する、と活動目的を掲げています。本来は週に一回決まった曜日での活動となり、園芸や四季折々の行事、環境整備、買い物の手伝い、ティーサービスなど活動内容は多岐に渡ります。現在はコロナ禍のため病棟内での活動は自粛していますが、違う形で「にじの会」らしい活動が少しずつ広がってきています。「にじの会」にご興味がおありの方は、是非お問い合わせください。

カトリック社会事業室
ボランティアコーディネーター 矢沢梨津子

オンライン講座の配信について

02

現在、コロナウイルス感染防止のため、疾病予防やお産関係の教室や講座（以下講座）を休止しています。普段ご利用されていた方には残念な思いをさせてしまい、大変心苦しく思います。一部の教室ではお伝えしたい内容を文章にまとめて配布するなど代替策を講じてきましたが、なんとか以前と同じような環境を整えられればと考えた末、動画に収録して公開することとしました。

動画は当院のYouTubeチャンネルに掲載して、病院のホームページ上で閲覧できるようにしまし

た。通常は1回当たり1時間を超える教室もありますが、説明内容や担当者ごとに10～15分程度のチャプターにまとめ直し、お気軽にご覧いただけるようにしました。

現在、骨粗鬆症ミニレクチャーと糖尿病教室の動画の公開を開始しており、新しい動画を順次掲載していきます。

教室が再開されるまでの間こちらの動画を参考にいただくと幸いです。

企画広報課 鈴木悠太

動画掲載箇所

トップページ> 聖霊病院について> 情報公開> 各種教室・講座のご案内
URL: <https://www.seirei-hospital.org/aboutus/johokokai/>



私たちと一緒に働きませんか？

03

看護師（経験者）、介護福祉士（経験者）、看護補助者（未経験可）を募集しています。

地下鉄鶴舞線いりなか駅下車徒歩3分と立地もよく、通勤しやすい環境になります。1人ひとりの患者さんと向き合うことを大切にしています。今まで培ってきた経験を当院で活かしませんか？

一度、見学にいらしてください。

ご連絡お待ちしております。



お問い合わせ先

聖霊病院 人事課 TEL: 052-832-1181(代)



編集後記

コロナウイルスは医療機関の連携体制にも影響を及ぼしました。従来のように対面しての会議や研修を行うことが困難となり、WEB会議が一気に普及しました。システムまわりの整備が求められる一方で、移動時間を考慮せずに済むため多忙な職員もピンポイントで参加できるなどの利点も生まれました。今回は地域医療連携センターの機能と取組みについて取り上げ、名古屋第二赤十字病院の塚川先生にご寄稿いただきました。何かと制約の多い状況ではありますが、患者さんの支援を継続するため、『密は避けつつ連携は密に』して参りたいと思います。

企画広報課（鈴木）



聖風 せいふう

2021.1 月号

発行責任者／院長 春原晶代 ●編集／企画広報課

社会福祉法人聖霊会
聖霊病院
HOLY SPIRIT HOSPITAL

〒466-8633 名古屋市昭和区川名山町56番地
Tel: 052-832-1181
<https://www.seirei-hospital.org/>

12



写真提供：用度課 課長 幾田和男



院長
メッセージ
Message of the hospital superintendent



病院長
春原晶代

院長より新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染症への対応で明け暮れた一年であったと思います。病院入り口の開放時間の短縮、検温の実施、原則面会禁止などで、皆様には多くのご不便をおかけしています。

発熱患者は病院内の専用の場所で診察を行っております。院内感染を防ぎ、医療を守るためにご協力をお願いいたします。WEB会議やオンライン講座など新しい試みも始まっています。新しい年が明るい年になるよう願っています。

HOT NEWS

新型コロナウイルス・インフルエンザ対策のワンポイントアドバイス

新型コロナウイルス（以下COVID-19）とインフルエンザは違うウイルスのため、同時に感染する可能性はゼロではありません。症状はとてもよく似ています。一般的にインフルエンザは高熱を伴って急激に発症すると言われていますが、症状だけで容易に見分けることはできません。

2019-2020シーズンではインフルエンザの罹患者は少なかったと報告されています。これは、COVID-19感染対策として行っ

たマスクの着用、手洗い、人混みを避けた生活の効果であったと考えられます。今年の冬も習慣化されたマスクの着用、手洗い、人混みを避けることに留意していただきたいと思います。

また、部屋の空気をこまめに入れ替えることが感染対策の一つです。室内の温度を下げすぎないように注意しながら、1時間に2回以上を数分間、2方向の窓を全開にして換気されると良いです。インフルエンザは寒さと乾燥に強

い特徴があるため冬に流行します。空気が乾燥するとのどや鼻の粘膜も乾燥するためウイルスに対する防御機能が低下して感染しやすくなります。加湿器をお持ちの場合はご利用いただき、お持ちでない場合は洗濯物の部屋干しや花瓶などに水を張るなどで代用していただき、室温20～23℃、湿度50～60％程度を保てるようにしてください。

感染対策室
感染管理認定看護師
鈴木京子





地域医療連携センターについて 新組織体制の紹介



今まで以上に看護師と医療ソーシャルワーカー、専門職種、事務がシームレスに連携できるように

2019年12月から、地域医療連携センターは大きく生まれ変わりました。

センターを1Fから4Fに移し、組織再編により「連携事務局」「医療福祉相談室」「患者支援室」「訪問看護室」が同室になりました。本来、地域医療連携センターは来院患者に分かりやすいようにと正面1階が基本となっていますが、当院の4階は、車の来院患者にとって正面玄関と置き換えることができます。また、2020年1月からは、「心理相談室」、さらに、2020年11月からは「地域支援室」が加わり6室となりました。これにより、今まで以上に看護職と医療ソーシャルワーカー、専門職種、事務がシームレスに連携できるようになりました。

6室の機能は次の通りです。

1 連携事務局

地域の医療機関、介護福祉施設等との連携窓口

2 医療福祉相談室

社会・経済的問題等、生活全般についての相談

3 患者支援室

入院前・入院時から退院・退院後の生活を見据えた支援

4 訪問看護室

小児から成人まで、地域における（在宅、施設等）での療養支援
特に、在宅看取りやターミナルケアに力を入れています。

5 地域支援室

専門性の高い看護師による地域の人々のニーズに合わせた看護の提供

6 心理相談室

心の健康相談・健康チェック



▲ 地域医療連携センターに携わる職員一同
※写真撮影時のみマスクを外しています

2020年11月～「地域支援室」が加わり、緩和ケア認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、認知症看護認定看護師が配属となりました。その機能は、認定看護師による在宅訪問、転院先医療機関・地域施設との情報共有（ケア等の実践指導、困難事例の電話対応等）、看護外来等、実践・指導・教育を中心に地域のニーズに応じた実務的な支援を行います。

今まで各部門の場所が離れており、また、一部命令系統も別でしたが、管轄する担当副院長、担当看護副部長がセンター長と協働することで、縦と横のつながりが生まれ、風通しの良い環境となりました。ご心配、ご不安なこと等ありましたら、お気軽にご相談頂けましたら幸いです。



名古屋第二赤十字病院との連携強化について WEB会議を活用して円滑な コミュニケーションを図る



週1回のWEB会議により双方の要望や問題を検討し改善



2019年5月から、名古屋第二赤十字病院と週1回定期的にミーティングを行い、現在はWEB会議を継続し、双方の要望や問題を検討し改善を図っています。医師同士も転院患者の症例検討を行う等、医療・看護の質向上につながってきつつあると感じています。

この先は、名古屋第二赤十字病院にバトンタッチします。

地域医療連携センター
センター長 古城敦子

聖霊・八事日赤 両病院の目指すところ ～協調のもと、同じ地域に手を携えて～

いつもご一緒させていただいております！

名古屋第二赤十字病院医療連携担当の塚川と申します。

聖霊病院の広報誌に、「なぜ八事日赤が？」そんなんです。

いつも一緒に仕事をさせていただいているんです！！

この定例会では、日々の患者さんのやりとりでのお礼、課題の抽出、関係者のご挨拶や、病院の取り組みや動き、相互に役立つ仕組みなどを、ちょっとしたことでも、必要なことは共有するようにしています。最近ではコロナの両院における対応なども大事な話題となっています。また、毎週というのがミソで、内容があらうがなかろうが、そこに課題はないか？ということ、その都度意識しあう、また、普段の業務上で浮かび上がる課題も、今度の定例会で言えば良いね、というようなことで、やりとりの風通し、疎通性は、以前に比べて格段に良くなったと思います。

ざっくりばらんな会議ですので、聖霊職員のみなさ

ま、ぜひ日赤に伝えよう、と思ったことがあったら、お顔を出してください。次週には次につなぐべき人がその画面へと登場して次のやりとりへと進んでいきます。このようにWEB会議は重要なコミュニケーションツールとして連携上、大いなる円滑をもたらす場となっています。

地域のみなさまにとっても両病院が仲良く、円滑な運営を担う関係にあるのは、医療・福祉・介護などの地域の社会資本の充実へとつながりますので、いっそうご安心いただけますよね。

これからも、聖霊病院と日赤病院は手を携えて地域の医療を担っていきます。

日々の取り組みの一部も知っていただき、暖かい目で見守っていただければ、と考えております。

これからも、より良い関係作りを目指します。

聖霊、八事日赤、両病院をよろしく願いいたします。

名古屋第二赤十字病院
地域医療連携センター
地域連携室長
塚川敏行 先生

